

社団法人 埼玉私保連



広報

No.108

2010. 7. 31

発行

第53回 全国私立保育園研究大会 埼玉大会 特集



咲いたまごころ全国大会 盛大に開催

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

第53回全国保育園研究大会 埼玉大会報告



参加者数 2,000人超!!

多くの皆様のご参加により素晴らしい大会となりました

メイン会場：大宮ソニックシティ

みつめよう子どもの“今” はぐくもう子どもの“未来”



第53回全国私立保育園研究大会埼玉大会は、天候も味方について盛会のうちに終了することができました。お忙しい中、本大会のためにご協力いただいた会員園の皆様方、ボランティアとしてご協力くださった学生の皆さん、保育業者の皆さん、埼玉県知事様、さいたま市長様はじめ地元行政の皆様方、会場およびホテル関係の皆様方、受付窓口となってくださった旅行会社の方々、本大会に必要なすべての資料を整えてくださった印刷会社の方々、特に全私保連の遠藤事務局長はじめ事務局の方々には大変お世話になりました。心から厚く厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

「学んだことの証は変わることである」と言いますが、参加された全国の皆様方は今大会で学ばれたことを、お国に帰って是非地域での子育てに生かしていただければ幸いです。テーマソングも子育て応援歌として歌っていただければ幸甚です。

埼玉大会実行委員長 遠藤 亘



まずは会場までの案内・誘導 炎天下お疲れ様でした

そして11時30分
開場です



大会初日：6月16日(水)

朝のうち雨模様だった天候もカラッと晴れ上がり、大会当日を迎えました。



オープニングアトラクションとして秩父屋台囃子が威勢よく打ち鳴らされると、会場のみなさんは興味を持って聴き入りました。埼玉大会実行委員長 遠藤亘氏から開会宣言がなされ、続いて児童憲章朗読が高杉敏江氏、全国私立保育園連盟基本綱領朗読が新島一彦氏より行われました。



主催者を代表して全私保連会長 黒川恭眞氏、そして埼玉私保連会長 森田弘道氏から挨拶が行われ、歓迎ムードが高められました。来賓祝辞・新規加盟団体への連盟旗受け渡し・表彰等が引き続き行われました。



午後はまず厚生労働省 今里譲氏の行政説明が行われました。説明の要旨はH20年3月から社会保障審議会少子化対策特別部会で審議されてきた次世代育成支援のための制度設計に向けた検討が、H22年1月に新たに子ども子育て新システム検討会議に移されたということ。主管も厚生労働省から内閣府となり、保育サービス等子育て支援策の総合的な推進のためにビジョンを策定し、同時に今後5年間の数値目標も策定されたということ。H23年には法案を国会に提出し、H25年には施行する予定であるということでした。全国私保連常務理事 菅原良治氏からの基調報告も「子ども・子育て新システムの構築と「幼・保一体化」の動きを考える」と題して行われました。初日日程の最後はシンポジウム「みつめよう子どもの“今” はぐくもう子どもの“未来”」でした。植田隆氏（コクヨ株式会社）、藤井ニエメラみどり氏（フィンランド在住）、藤森平司氏（新宿せいが保育園長）の三氏それぞれのお話は大変興味深く、子育てにおおいに参考になりました。





分科会2 心と体を育む「食育」の具体的実践から学ぶ



分科会4 保護者との共育ち・共育ての関係をどう築いていくか



分科会6 「気になる子ども」という捉え方を考える



分科会8 家庭と連携した健康な身体づくりへの取組



分科会10 「すべての子ども」の育ちを保障するあらたなしくみの構築に向けて



分科会12 職場のよりよい人間関係づくりーカウンセリングの学びをいかしてー



分科会14 一から学ぶ社会保障



二日目
6/17
(木)
分科会の様子

全国私立保育園研究大会のメインイベント!

参加者の熱気が伝わってくるようです



分科会1 今求められる子育て・保育環境の見直し



分科会3 保育に活かす絵本の世界



分科会5 保育実践の質を高め合う園内研修の持ち方



分科会7 異年齢保育における子どもの育ち合いと抱える課題



分科会9 保・幼・小の連携のあり方を探る



分科会11 イギリスの乳幼児期戦略は日本の保育施策と何がちがうのか



分科会13 保育園の危機管理…法律からみた危機管理とは





分科会16 地域の子育て力の再生と保育園の役割



分科会18 保育者の抱える悩みとメンタルヘルス



分科会20 江戸の情緒漂うレトロモダンな町、川越めぐり



分科会22 人と自然の魂にふれて



泰然自若
望月総務委員長



多事多端
牧大会副委員長

そして
その時



分科会15 青年期を見通した乳幼児期の育ち



分科会17 都市部の保育園・過疎地の保育園の抱える経営問題



分科会19 郷愁の体験と近代の発見、そして未来の創造へ



分科会21 息づく伝統の技と忠七めしのルーツを訪ねて



分科会23 日本の侘び寂びを体現する芸術の世界へ



懇親会と
ミニ懇親会



第53回 全国私立保育園研究大会埼玉大会

3日目：6月18日(金) 会場：大宮ソニックシティ



《分科会報告》

ステージ両サイドの画面に前日に行われた分科会の模様がスライドで映し出されるなか、全国私立保育園連盟伊東世光氏より、分科会報告が行われました。



分科会：第Ⅰ群「子ども・家庭の今」と確かな育ちあいのために、第Ⅱ群 保育制度改革とこれからの保育園経営のあり方、第Ⅲ群 埼玉私保連がこだわる子育て・保育ルネッサンス的分科会、第Ⅳ群 フィールドワーク、以上23分科会それぞれにおいて、意義ある実践報告と議論がなされたことが丁寧な言葉で語られ、どの分科会からも参加者の熱意が伝わる充実したものとなりました。

《フィナーレ アトラクション》



煌めくライトに透き通る歌声、4人の素晴らしいハーモニーで「ジュレップス」のステージの幕が開きました。オリジナル曲と誰もが口ずさめる曲をセレクト、会場全体が柔らかい雰囲気包まれていました。

《記念講演》



講師に昭和女子大学学長 坂東眞理子氏を迎え「子どもの未来を創る保育」をテーマに熱いメッセージをいただきました。

埼玉県副知事をされていた当時の話や、ご自身の子育てのお話を交え、今の子育てには、体力・基礎学力・コミュニケーション能力・贅沢をさせないことの4つが必要であるとおっしゃっていました。

大学・高校・中学・小学校の先生方が、子どもたちを迎え入れた時それぞれに「この子どもたちは、今まで何をしてきたのだろう？」と感じているという言葉が印象的でした。子どもの脳が一番柔らかい何でも吸収する時期に携わる者<保育者>として、子どもの育ちをしっかりと見つめ、自立することの意味を間違えずに伝えていかなければならないと感じました。



埼玉大会実行委員長：遠藤氏とジュレップス



《閉会式》



大会宣言文朗読を増永久美子氏



大会アピール文朗読を久保田泰雄氏



埼玉県私立保育園連盟森田会長より、兵庫県私立保育園連盟代表者へ大会旗が引き継がれました。



次期開催地、兵庫県私立保育園連盟の方々によるPRが行われました。



次期開催地、兵庫県私立保育園連盟代表者挨拶



埼玉大会副実行委員長：水上氏による閉会宣言
埼玉大会は閉会しました。
皆様のご協力に感謝申し上げます。



皆様本当におつかれさまでした



◆◆ 編集後記 ◆◆

梅雨明けと同時に、連日、熱帯夜が続いています。今年の最高気温を記録する都市は、どこに輝くのでしょうか。最近では、熊谷と館林が競うようになっていますが、熊谷市民としては「暑さで一番になってもね〜」が本音。毎日、子どもたちの熱中症予防に躍起になっています。もっと、違うことで一番になりたいものです。 (T・M)

卒園生の活躍は嬉しいものです。うちの園の卒園生が今年の甲子園埼玉代表校で出場します。代表決定までの連日、球場まで足を運び応援しました。自分のことのように嬉しく、勝利の瞬間涙しました。甲子園での更なる活躍をお祈りします。また、このために今回の広報原稿提出が遅れたことも併せてお詫びします……。 (S・K)

ようやく全国大会が終わりました。どの部署も1年前から準備を始め、大会当日に仕事がピークになりますが、広報部はちょっと異なりまして、資料作成がメインとなるため、大会当日に加えて一ヶ月前と一ヶ月後にもピークがあります。もしかしたら一番割の悪い部署を担当してしまったのではないだろうか…。 (M・K)